

わたしは、NHK 連続テレビ小説「なつぞら」の舞台にもなった某農業高校を卒業し、現在の勤務先に就職して約 30 年間、主に国営土地改良事業の調査・計画に関する業務について携わってきました。私が入社した頃は、国営土地改良事業の計画変更に関係する業務が多いこと、また当時の上司曰く「幅広く知識を取得させる」との方針から、猪突猛進の勢い(たまに暴走することもありましたが...)で水源計画から水利計画、施設計画、事業費積算など、調査計画に関する項目に幅広く関わることができました。これが自分自身の技術的な礎になっていることは間違いのないと思います。

私の技術士受験は、計画変更業務の慌ただしさが落ち着いた 2001 年(平成 13 年)頃から会社の方針で進められたのがきっかけでした。当初は、諸先輩方でもなかなか難しいとされる「技術士」に私がかかるわけがないとあきらめていましたが、2004 年度(平成 16 年度)から「営農・効果」を主体とする農業経済分野への配置転換が契機となり、異なる視点で自分の専門分野を見つめる機会を得ました。

それ以降、あるテーマに対する視点が広がり文章の展開力が養われ、2009 年度(平成 21 年度)に合格する事が出来ました。まだまだ技術士として至らぬ点もありますが、今迄の経験から思うのは、専門技術を深く掘り下げることも必要である一方「異分野の知識を幅広く得る」ことも重要であり、異なる分野と自分の専門分野を結び付ける事で、多様な視点が要求される論文構成に役立つと思います。

最後になりますが、近年急速に普及しているドローンや今後広まるとされる 5G 技術等、新技術がめざましい進展を遂げる中、こうした新技術にも目を向けて「幅広い」知識を取得したいと思います。

白木 剛(しらき つよし)

● 農業部門(農業農村工学)

勤務先

株式会社 農土コンサル



→次号は、山本暁史さん(農業部門)

私は十勝にあるコンサルタント会社で水質分析をはじめとした環境測定などの環境関連業務に従事しています。生まれは留萌市ですが、4 歳から中学校卒業までは父の仕事の関係で当別町、今金町、音更町、石狩町(私が住んでいたころはまだ町でした)、札幌市と北海道各地を転々とした結果、「地元」や「故郷」といって思い当たる場所は特にありません。強いて言えば、高校時代を過ごし、現在実家のある札幌でしょうか。

就職に際しては、これからは環境の時代、大学で学んだ化学の知識も活かせる、何より「食いつぶれないのでは」という少し不純な思いから、環境測定の仕事を選び、現在まで同分野で働き続けています。環境測定の業界では定番である環境計量士の資格を取得した後は、何となく「次は技術士かな」と考え、試験に挑みました。その何となくという気持ちもいけなかったのでしょうか、試験には何度も失敗し、その度に心が折れかけました。しかし、技術士資格を持ち、活躍している先輩や同僚の姿をみて、なんとかモチベーションを維持し受験を続け、昨年ようやく合格し技術士となることができました。

新型コロナウイルス感染症流行の影響で、今後の社会は変革を余儀なくされると言われています。(この原稿も緊急事態宣言が出ている最中に書いています。)日々勉強、自己研鑽に励み、変容していく社会においても、柔軟に対応し、社会貢献ができる技術者を目指したいと思います。

神谷 裕幸(かみや ひろゆき)

● 環境部門(環境測定)

勤務先

株式会社ズコーシャ
総合科学研究所 環境科学室



→次号は、山川正臣さん(建設部門)